



国際的に活躍する専修人を紹介する「Globali 専修 International(グローバル「専」ション)」。4回目はシンガポールで会計事務所を経営する成田武司さんに登場いただく。

EJ Consultancy Services Pte Ltd, Director

成田 武司さん(平22院法修)

TAKESHI NARITA



務の知識を用いた節税対策です。税制は国によって全く異なり、海外進出が難しい分野とされています。その中で私は日本とシンガポールの税務の専門家として、顧客の要求に応えるのが使命だと思っています。

—仕事の上で重視していることはなんでしょう。お客さんに対して最大限の価値を提供することで。私は取引先に「稼ぎたい」とはっきり言います。「あなたやあなたの会社にサービスを提供したい。とことんサポートしたい。そしてその結果として稼ぎたい」と。税務はグローバル企業の核ともいえます。私の頭の中に詰め込まれているさまざまな知識や実務事例を提供することで、その核となる部分をより一層、磨くことができると思っています。

専大生へのメッセージ

Take a chance

日本では給与水準が上がらず国力が弱くなっています。そんな時だからこそ、臆せず海外でチャレンジしてほしい。コロナだからとか、語学に自信がないからとかを言い訳にしないで、チャンスがあるならば必死でつかんでください。若いうちは「やりたい」と手を挙げれば、周囲が助けてくれます。そのためにはもちろん、勉強を続けることが重要です。大学卒業や資格取得で終わりではありません。むしろ、そこから始まるのです。そして学んで海外で働いて身につけたことを、いつか日本に還元してください。私も常々、シンガポールで活躍している人たちと「日本に恩返しをしないとイケない」と話しています。

国際税務のエキスパート

—現在のお仕事を教えてください。シンガポールで会計事務所を経営しています。シンガポールや日本のお客様に税務会計サービスを中心に提供しています。私は専修大学大学院法学研究科を修了した後、税理士の資格を取得しました。日本とシンガポールで税務会計サービスの経験があり、2017年に現在の会社を他の共同出資者とM&Aにより取得し規模を大きくしていきました。日本の企業の海外進出、ASEAN企業の日本進出などをお手伝いしています。現在はクライアント700社、そのうち10%が日系企業です。

—国際的に働くようになったきっかけは。大学院では増田敏敏教授の指導を受け、納税者保護について学び、修了後、業界の大手会計事務所就職。国際税務を担当していました。4年目にシンガポール事務所の立ち上げの話が持ち上がり、自ら手を挙げました。

ところが実は語学は全然ダメ。正直なところ、海外赴任のレベルに達していませんでした。しかし会社が「英語ができなくても税務ができれば構わない」と言ってくれて赴任が決まりました。そこから英会話教室に通い、毎日勉強しました。

—仕事はほとんど英語ですが、苦労はありましたか。税制など専門的なやりとりについては当初から問題ありませんでした。書類を「読む・書く」は難なくこなしていました。しかしやはり「話す・聞く」はなかなか進みません。赴任後も、現地の英会話スクールに複数通ったり、スカイプ英会話で講師と話したりして、英語を使う環境に自分をおきました。愚直に続けることで、会話や聞き取りも不自由なくできるようになりました。

ただ、私は、英語はコミュニケーション手段なので完璧でなくても構わないと思っています。顧客が私に求めてくるのはコミュニケーション能力ではなく、税

学生相談室

カウンセラーが常駐 迷った時には相談を

すべての学生が主体的に学修できるよう、一人一人に寄り添い、支援するため、本学では学生相談室と障がい学生支援室を置いている。SDGSの基本理念である「誰一人取り残さない」をベースに、専任スタッフや教員が学生を多方面からサポートしている。

【相談したい時】 対面相談は1回約50分。事前予約が必要。保護者からの相談にも対応している。 神田キャンパス 1号館 黒門 専大通り 10号館 9号館 至九段下駅 靖国通り 至神保町駅 神田9号館2階 ☎03-3265-6216 平日:9~18時 土曜:9~12時 生田キャンパス B1階学生相談室 2号館 3号館 4号館 生田緑地 グリーントップ ☎044-911-1278 平日:9~17時 土曜:9~12時

今後のイベント 無料法律相談 来室または電話で受け付けし、電話、オンライン、対面で相談に応じる。さまざまなイベントも予定している。気軽に問い合わせをしてほしい。 前申し込みが必要。

「誰一人取り残さない」すべての学生の主体的な学修をサポート



障がい学生とともに学食の実態を調査

障がい学生支援室

ピアサポーターが 修学支援と啓発活動

ピアサポーターとは、仲間同士で支え合いの活動のこと。「支援する側」「支援される側」という関係性ではなく、同じ学生同士として支え合い、課題を解決していくコミュニティ作りを目指している。ピアサポーターの活動は、障がい学生修学支援活動と、交流や啓発のピアサポート活動の二つがある。このうち修学支援活動は、授業のサポートや移動支援など支援を必要としている学生の要望に応じて積極的に展開している。ピアサポーター活動では昨年度、障がい学生とともに学食の実態を調査したほか、バリアフリーマップなどの作成に着手した。今年度は48人のピアサポーターが登録し、活動を始めている。

小峰直史

声に気付き、受け止める 響いていけばいいほど声を発することは容易なことではないです。声を発することも苦しいでしょう。両室のスタッフは、たとえそれが消え入り



nsibility. この語源はフレンチ語の response です。その原義は「返答・応答の能力・可能性」。学生相談室・障がい学生支援

室は、学生の声に丁寧に応えるという責任を持っていきます。問いかげや呼びかけに込めるとい責任のあり方をキャンパスに育んでいく部門でもあります。 With コロナも長期化しています。気付かぬうちにしんどさや喪失感のため込んでいくこともあるでしょう。生田の山、神田の街に私たちは居ます。どうぞドアをノックしてください。(人間科学部教授)



昨年度活躍したピアサポーター

障がい学生支援室 相談受け付け・問い合わせ 【開室】月~金 9~17時 ■ Email : sien@acc.senshu-u.ac.jp ■ 生田キャンパス 4号館1階 ☎044-946-7001 ■ 神田キャンパス 9号館1階学生生活課内 ☎03-3265-6824